

株主のみなさまへ

第103期 報告書

2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日



旭ダイヤモンド工業株式会社

証券コード：6140

ごあいさつ

株主のみなさまにおかれましては、日頃より当社へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大により、罹患された方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早く感染が収束することを願っております。

ここに当社グループの第103期（2022年3月期）の営業概況をご報告し、次期の見通しについてご説明させていただきます。ご一読を賜り、当社へのご理解を一層深めていただければ誠に幸いに存じます。

2022年6月

代表取締役社長 片岡 和喜



第103期の営業概況

当連結会計年度における国内経済は、前年度と比較すると景気を持ち直しが見られたものの、当連結会計年度後半は、新型コロナウイルス感染症が再拡大し、行動制限による消費の鈍化や、部品不足により生産活動が停滞する等、景況感は足踏み状態となりました。世界経済においても、国内同様、当連結会計年度の前半は急激な景気回復が見られましたが、後半は半導体不足が主因となり、回復ペースが鈍化しました。

このような状況の中、当社グループは、製品開発や顧客需要に応える生産体制の再整備の効果もあり、前年度と比較し、売上は大きく増加しました。売上構成比の高い電子・半導体業界では、市場が活況であったことから売上は大きく増加しました。また、輸送機器業界、機械業界向けの関連工具においても、当連結会計年度の前半は両業界ともに生産が好調であったことから、関連工具の販売は前年度を上回る結果となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、371億61百万円(前期比23.3%増)となりました。利益面におきましては、営業利益28億11百万円、経常利益36億50百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は32億88百万円となりました。

期末配当は1株当たり16円を実施し、中間配当の同8円と合わせ、年間配当額は同24円となりました。

次期の見通し

次期につきましては、新型コロナウイルスの変異株による感染拡大の懸念があるなど未だ不透明であり、さらにロシアのウクライナ侵攻に対する経済制裁に伴う原材料費の高騰など経済活動への影響は次期も続くものと思われます。

このような状況の中、当社グループは、活況な携帯端末などのIT機器及び液晶画面関連や自動車・機械部品関連などの各業種に対して、2020年度に再編成した国内生産拠点を最大限に活用し、増拡販を目指してまいります。また、自動車及び機械部品関連業種につきましては、EV化により需要が見込める軸受や省力化機器にも用いられる各種歯車加工用工具の安定供給に向けた生産の取り組みも継続してまいります。

開発面においては、再編を行った開発・技術サポート・工程改善などに関する各部門を活用して、顧客や市場の変化に対応した製品開発のスピードアップを引き続き図ってまいります。

海外においては、旭ダイヤモンドヨーロッパの再建計画を着実に実行し、欧州地域の販売体制強化と増拡販を目指してまいります。また、インド地域における代理店の子会社化についても新型コロナウイルスの影響により、交渉が中断していましたが、子会社化に向けて加速させてまいります。

当社グループが一丸となり、新規顧客の獲得、新製品の投入に注力し、売上と利益の増加を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第104期の連結業績予想 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

売 上 高	41,000百万円	(当期比 10.3%増)
営 業 利 益	3,200百万円	(当期比 13.8%増)
経 常 利 益	3,700百万円	(当期比 1.3%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,500百万円	(当期比 24.0%減)
年 間 配 当 金	1株当たり18円 (中間8円、期末10円)	

※ 当報告書に記載の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

旭ダイヤモンドグループのビジネスフィールド

当社グループは、世の中に存在する最も硬い素材であるダイヤモンド及びCBNを使用した工具を製造・販売しており、「切る」、「削る」、「磨く」、「穿つ」などといったものづくりの基本となる工程において、幅広い業界のお客様から高い信頼を得ております。

電子・半導体業界

Electronics and Semiconductor

電子・半導体業界では、生産が好調であった携帯端末部品をはじめとした情報機器向けや基板材料向け関連工具の販売に注力したことにより、関連工具の販売が大きく増加し、売上高は137億52百万円(前期比24.2%増)となりました。

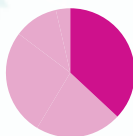


売上構成比

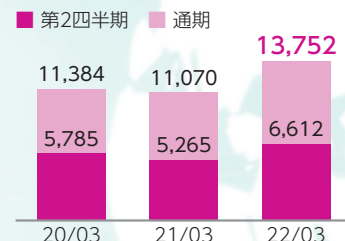
37.0%

売上高

13,752 百万円



売上高 (単位: 百万円)



輸送機器業界

Transportation

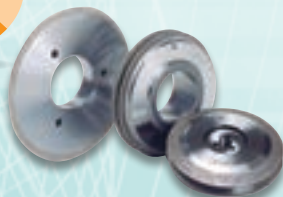
自動車業界では、第4四半期後半に再び減産となりましたが、当連結会計年度の生産が好調であったことから、関連工具の販売は増加しました。また航空機業界においては、航空機需要の低迷が続き、関連工具の販売は減少しました。売上高は81億15百万円(前期比19.3%増)となりました。

売上構成比

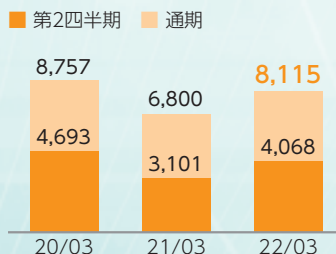
21.8%

売上高

8,115 百万円



売上高 (単位: 百万円)



機械業界

Machinery

軸受や工作機械業界では、自動車等の輸送機器や一般産業用の生産が回復しました。また、超硬工具業界においても自動車・機械部品の需要増により生産が増加しました。それに伴い当業界向け関連工具の販売は増加し、売上高は98億32百万円(前期比31.8%増)となりました。

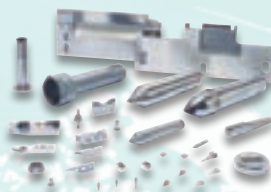
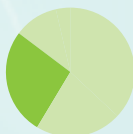


売上構成比

26.5%

売上高

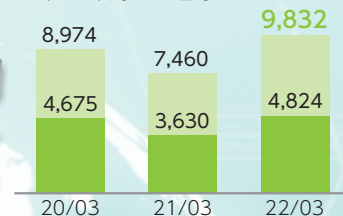
9,832百万円



売上高 (単位：百万円)

■ 第2四半期

■ 通期



石材・建設業界

Stone and Construction

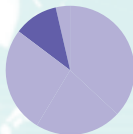
国内の建設業界では、高速道路の補修工事をはじめ、国土強靱化等の施策もあり、公共工事、民間工事とともに堅調に推移し、また石材業界では、墓石、建築、材料等の需要低迷による売上減少もありましたが、全体では前年度を上回る売上高となりました。売上高は41億24百万円(前期比13.5%増)となりました。

売上構成比

11.1%

売上高

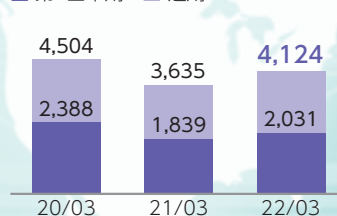
4,124百万円



売上高 (単位：百万円)

■ 第2四半期

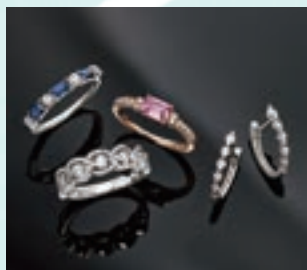
■ 通期



その他

Other

大学、研究機関、窯業及び宝飾等上記以外の業種への売上高は13億35百万円(前期比13.6%増)となりました。



売上構成比

3.6%

売上高

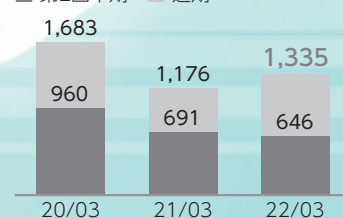
1,335百万円



売上高 (単位：百万円)

■ 第2四半期

■ 通期



日本

(単位:百万円)

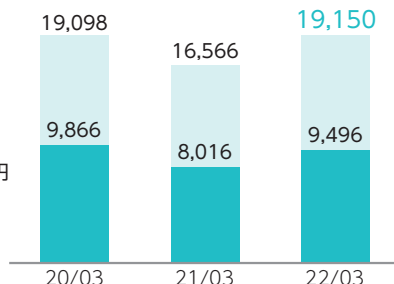
■第2四半期
■通期

売上高

19,150 百万円

売上構成比

51.5%



台湾

(単位:百万円)

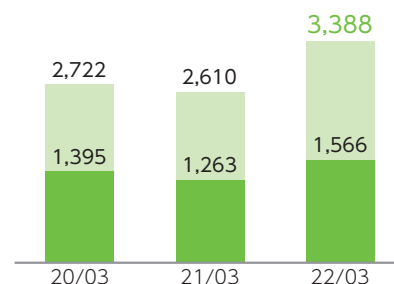
■第2四半期
■通期

売上高

3,388 百万円

売上構成比

9.1%



中国

(単位:百万円)

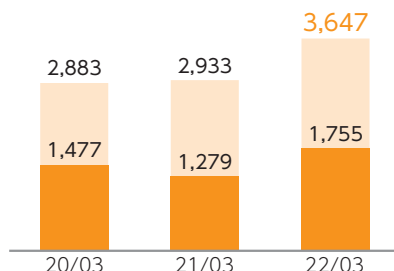
■第2四半期
■通期

売上高

3,647 百万円

売上構成比

9.8%



その他アジア・オセアニア

(単位:百万円)

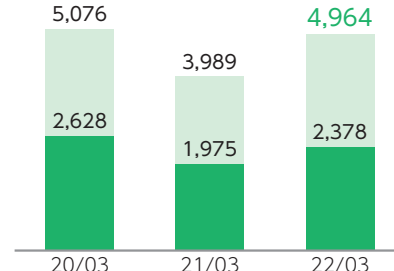
■第2四半期
■通期

売上高

4,964 百万円

売上構成比

13.4%



ヨーロッパ

(単位:百万円)

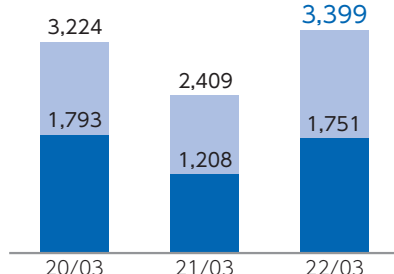
■第2四半期
■通期

売上高

3,399 百万円

売上構成比

9.1%



北米・その他

(単位:百万円)

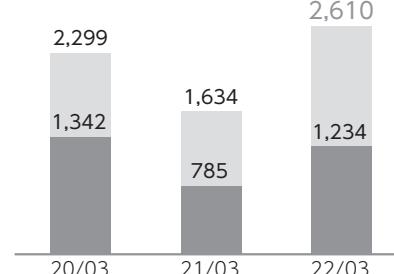
■第2四半期
■通期

売上高

2,610 百万円

売上構成比

7.1%

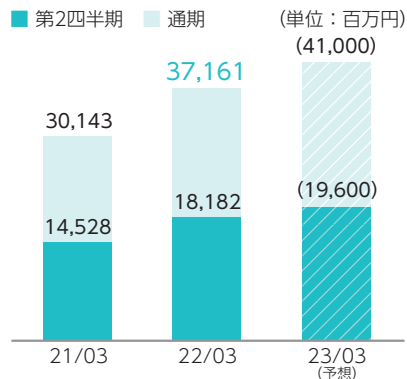


当期の
業績のポイント

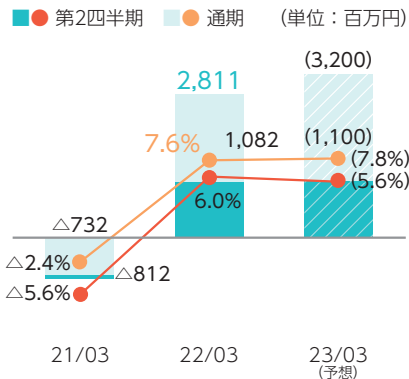
売上高
経常利益
親会社株主に帰属
する当期純利益
年間配当金

37,161 百万円（前期比 23.3% 増↑）
3,650 百万円
3,288 百万円
24 円（前期比 18 円 増↑）

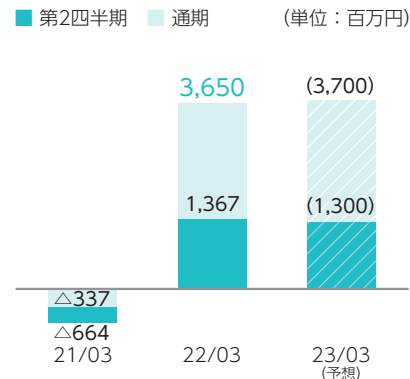
売上高



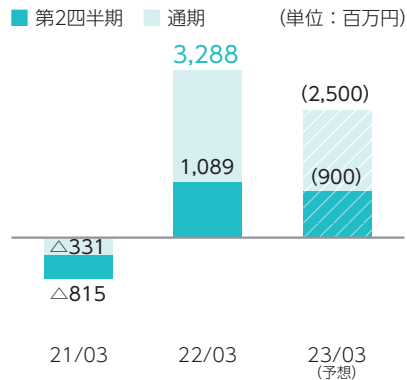
営業利益(△損失)及び売上高営業利益率



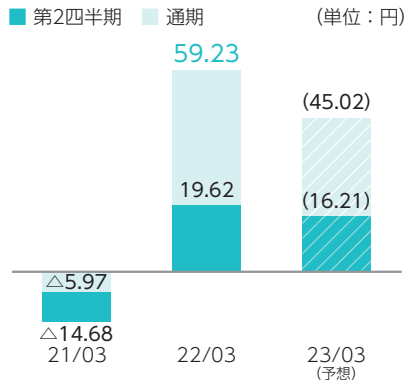
経常利益(△損失)



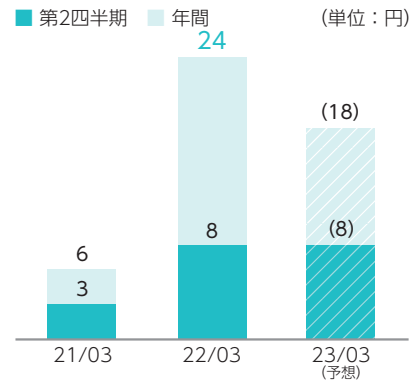
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益(△純損失)



1株当たり当期(四半期)純利益(△純損失)



1株当たり配当金



TOPICS 1

新市場区分「プライム市場」へ

当社は1972年に東証二部、1978年に東証一部に上場しておりましたが、2022年4月4日に東証プライム市場に移行しました。

今後も組織体制の強化、市場ニーズを捉えた製品開発を進めるとともに、当社グループ全体で、さらなる企業価値向上に向けて、より一層努めてまいります。



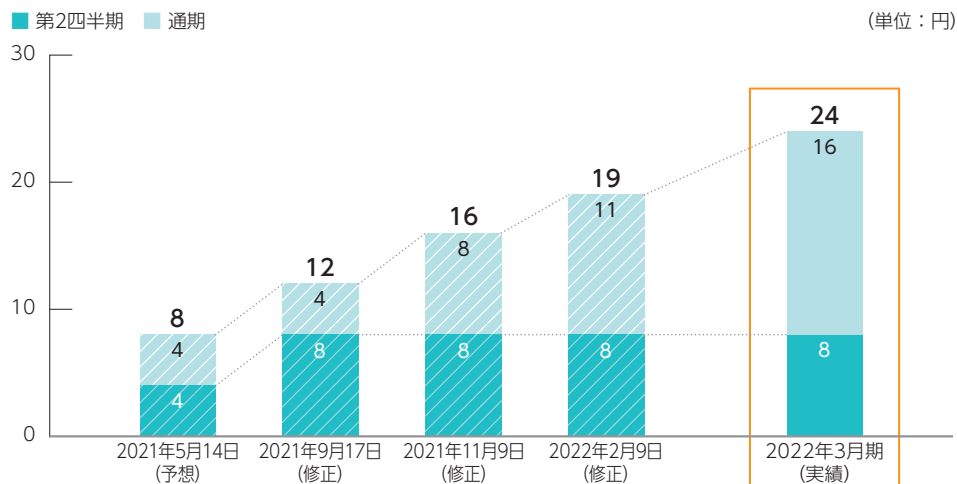
TOPICS 2

期末配当金の増配

期末配当金につきましては、2022年2月9日に公表しました業績予想を上回ったことから、1株当たり5円増配の16円とすることといたしました。

2021年5月14日の配当予想から見ると、中間配当金4円・期末配当金4円の合計8円でしたが、当初の予想から中間配当金は4円増配の8円、期末配当金は12円増配の16円、合計で24円の実績となりました。

今後も企業価値の向上と連結業績に応じた利益配分による継続的な安定配当を目指してまいります。



連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

	当 期 2022.3.31	前 期 2021.3.31
資産の部		
流動資産	33,361	27,161
固定資産	38,880	40,982
有形固定資産	25,434	26,535
無形固定資産	240	228
投資その他の資産	13,205	14,219
資産合計	72,241	68,144
負債の部		
流動負債	5,081	4,299
固定負債	6,290	6,547
負債合計	11,372	10,847
純資産の部		
株主資本	56,263	53,571
資本金	4,102	4,102
資本剰余金	7,129	7,129
利益剰余金	45,166	42,490
自己株式	△ 134	△ 150
その他の包括利益累計額	3,028	2,398
その他有価証券評価差額金	2,541	2,719
土地再評価差額金	196	196
為替換算調整勘定	292	△ 637
退職給付に係る調整累計額	△ 2	119
非支配株主持分	1,577	1,327
純資産合計	60,869	57,297
負債純資産合計	72,241	68,144

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

	当 期 2021.4. 1 から 2022.3.31 まで	前 期 2020.4. 1 から 2021.3.31 まで
売上高	37,161	30,143
売上原価	26,811	23,741
売上総利益	10,350	6,401
販売費及び一般管理費	7,539	7,134
営業利益又は営業損失 (△)	2,811	△ 732
営業外収益	857	414
営業外費用	17	19
経常利益又は経常損失 (△)	3,650	△ 337
特別利益	757	214
特別損失	—	258
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失 (△)	4,408	△ 381
法人税等	1,021	△ 73
当期純利益又は当期純損失 (△)	3,387	△ 307
非支配株主に帰属する当期純利益	98	23
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	3,288	△ 331

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

	当 期 2021.4. 1 から 2022.3.31 まで	前 期 2020.4. 1 から 2021.3.31 まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,948	△ 90
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 356	△ 4,289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,077	△ 604
現金及び現金同等物に係る換算差額	385	△ 50
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,898	△ 5,035
現金及び現金同等物の期首残高	10,649	15,685
現金及び現金同等物の期末残高	15,548	10,649

詳しい決算情報は当社IR情報をご覧ください。 ➡ <https://www.asahidia.co.jp/ir/>

旭ダイヤ IR



株式の状況

発行可能株式総数 190,300,000株
 発行済株式の総数 55,700,000株
 株主数 14,786名

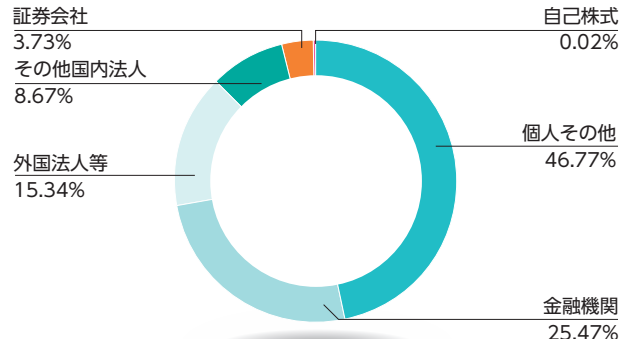
大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,088	12.73
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,391	4.30
旭ダイヤモンド社員持株会	1,905	3.42
株式会社三菱UFJ銀行	1,384	2.49
ユニオンツール株式会社	1,310	2.35
旭ダイヤ共栄持株会	1,266	2.28
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,082	1.94
日本生命保険相互会社	1,039	1.87
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	882	1.58
JP MORGAN CHASE BANK 385781	639	1.15

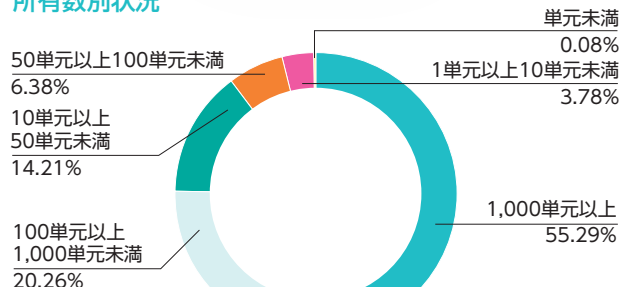
(注) 1. 持株比率の計算は、自己株式11,037株を除いて計算しております。

(注) 2. 持株数については、表示単位未満の端数を切り捨て、持株比率については四捨五入して表示しております。

所有者別状況



所有数別状況



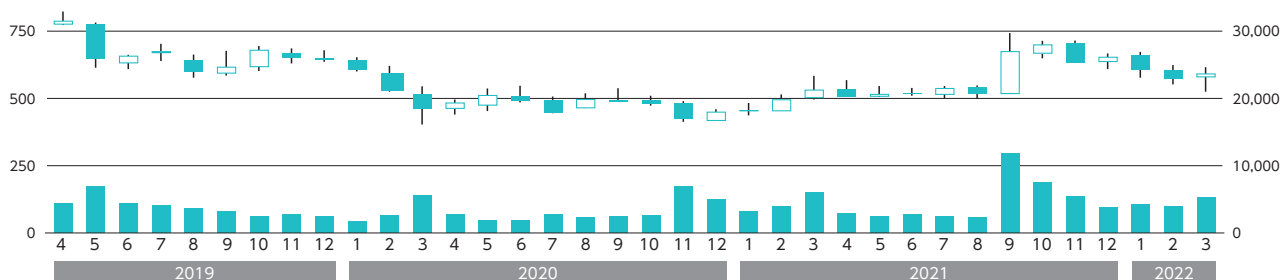
株価・出来高推移

(単位：円)

1,000

(単位：千株)

40,000



会社概要

商 号 旭ダイヤモンド工業株式会社
 英 文 社 名 Asahi Diamond Industrial Co., Ltd.
 本社所在地 東京都千代田区紀尾井町4番1号
 設立年月日 1937年10月9日
 資 本 金 4,102,188,450円
 従 業 員 数 998名 (連結 2,057名)

役員 (2022年6月24日現在)

取締役

代表取締役社長	片 岡 和 喜
代表取締役常務	原 智 彦
常 務 取 締 役	藍 敏 雄
取 締 役	萩 原 利 昌
取 締 役	阿 部 英 夫
取 締 役	松 田 順 一
社 外 取 締 役	小 山 修
社 外 取 締 役	永 田 新 一
社 外 取 締 役	市 川 祐 子

監査役

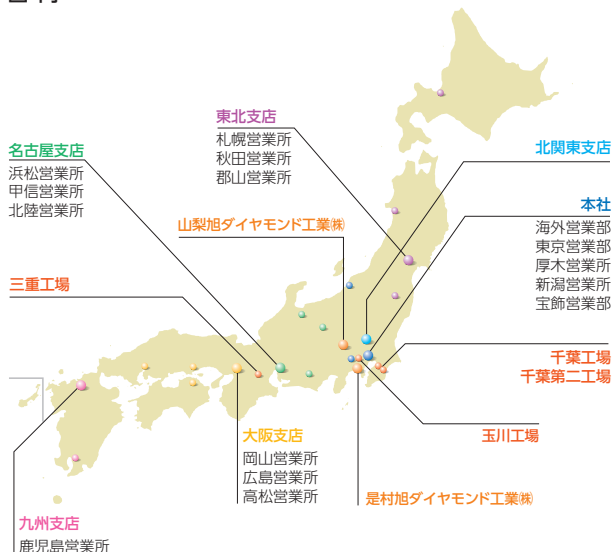
常 勤 監 査 役	松 崎 剛 実
監 査 役	香 山 盛 夫
社 外 監 査 役	大 高 由 紀 夫
社 外 監 査 役	川 嶋 誠 人

執行役員

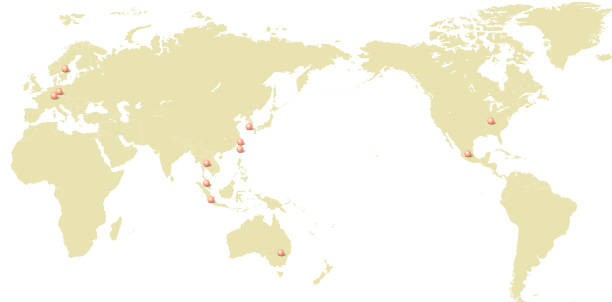
執 行 役 員	望 月 政 司
執 行 役 員	松 川 英 樹
執 行 役 員	小 浦 雅 美
執 行 役 員	佐 藤 公 一
執 行 役 員	澤 田 穰
執 行 役 員	日下部 均
執 行 役 員	川 合 宏 明
執 行 役 員	高 橋 智 樹

ネットワーク

国 内



海 外



海外グループ会社

上海旭ダイヤモンド工業 (中国)	旭ダイヤモンドオーストラリア (オーストラリア)
台湾旭ダイヤモンド工業 (台湾)	旭ダイヤモンドアメリカ (アメリカ)
新韓ダイヤモンド工業 (韓国)	旭ダイヤモンドメキシコ (メキシコ)
旭ダイヤモンドタイランド (タイ)	旭ダイヤモンドヨーロッパ (フランス)
旭ダイヤモンドインドネシア (インドネシア)	旭ダイヤモンドドイツ (ドイツ)
旭ダイヤモンドマレーシア (マレーシア)	旭ダイヤモンドスウェーデン (スウェーデン)

株主メモ

決算と配当金のお支払	毎年3月31日を決算期とし、年1回の決算を行います。配当金は毎決算期現在(中間配当をする場合は毎年9月30日現在)の最終の株主名簿に記録された株主又は登録質権者に対し、ご指定の方法によりお支払いいたします。
定時株主総会	毎年6月下旬に開催いたします。
定時株主総会の基準日	毎年3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により、当社ホームページに掲載いたします。(https://www.asahidia.co.jp/) 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。



WEB サイトのご案内

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、最新のニュースリリースやIR情報、ジュエリーの情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



URL : <https://www.asahidia.co.jp/>



Asahi Diamond Industrial Co., Ltd.

